

牛久：学校周辺に見る自然

第23号 ひたち野西近隣公園

2012年8月4日発行

＜ 水辺公園のトンボ ～①アオモンイトトンボとアジイトトンボ＞

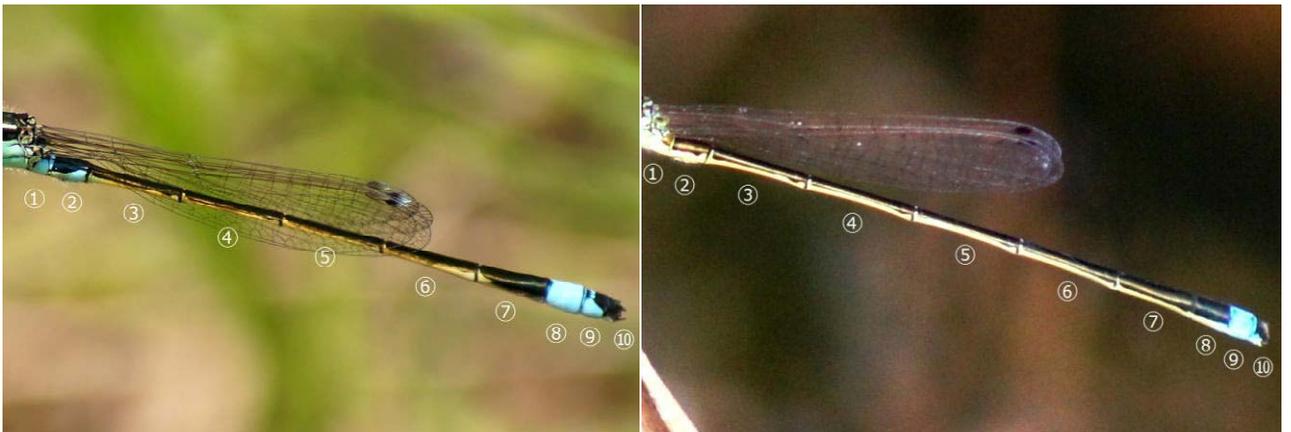
毎日、暑い^{ねっちゅうしょう}ですね。熱中症にならないように、お互い^{おたがい}、気をつけましょう。

さて、この号から何回かにわたって、6月なかばから7月に撮影した、水辺公園の夏のトンボを紹介していこうと思います。まずはじめに、互いによく似ているアオモンイトトンボとアジイトトンボ。両者の見分け方や、おす、めすの^{ちがひ}違いなどをまとめてみました。



互いによく似たアオモンイトトンボのおす（左）とアジイトトンボのおす（右）。

さて、どこが^{ちがう}違うか分かりますか？ パッと見た感じ、まったく同じようですが、じっくりながめてみると違いが見えてきます。



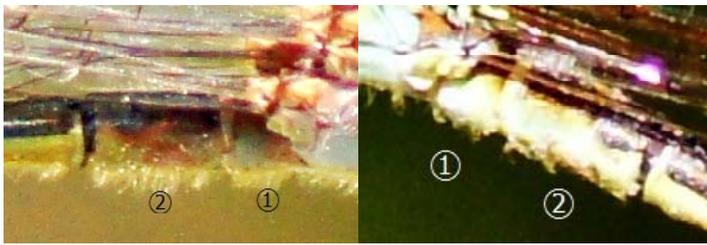
アオモンイトトンボのおすは腹部第8節が青い（左）のに対し、アジイトトンボのおすは第9節が青い（右）。

おすの腹部（ふくぶ）の先がアオモンイトトンボは第8節が青い^{せつ}のに対し、アジイトトンボでは9節目です。また、腹部第2節の黒いも^{ふくぶ}よりの形も違います。

続いてメス。胸部（きょうぶ）のもよりの形も少し違いますが、よく見ると大きな違いが見つかります。



互いによく似たアオモンイトトンボのめす（左）とアジイトトンボのめす（右）。

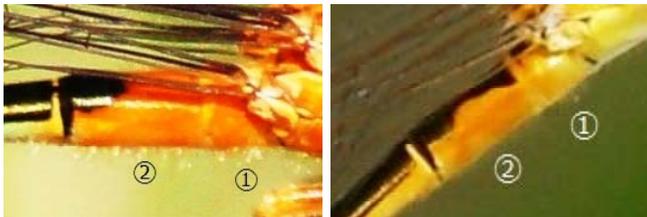


腹部^{ふくぶ}第1, 2節の背側に、アジアイトトンボでははっきりと黒いもようがありますが、アオモンイトトンボではうすくはっきりしません。この違いは、未熟なメスではもつとはっきりします。

アオモンイトトンボ (左) とアジアイトトンボ (右) のメスの腹部 (ふくぶ) 第1, 2節。



アオモンイトトンボ (左) とアジアイトトンボ (右) の未熟なメス。



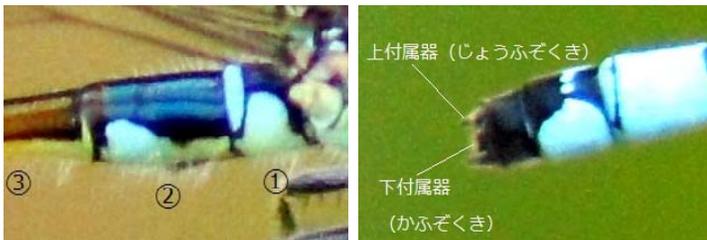
未熟なメスは、どちらもオレンジ色で、これまたそっくりに見えますが、腹部^{ふくぶ}第1, 2節の背側に、アジアイトトンボでははっきりと黒いもようがあるのに対し、アオモンイトトンボでは第2節の一部に見られるだけです。

アオモンイトトンボ (左) とアジアイトトンボ (右) の未熟なメスの腹部第1, 2節。



アオモンイトトンボの場合には、もう一つ、ややこしい問題があります。左の写真は、「アオモンイトトンボのオス」と思うでしょ？ ところが、じつはこれはメスなのです。アオモンイトトンボのメスには、前ページのようにすすけた草色でオスとはまったく違ったものの他に、左のようにオスにそっくりなものもいるのです。

←アオモンイトトンボのメス。オスと同色のタイプ。



オスとの違いをみると、オスの腹部^{ふくぶ}第2節下側には「副性器(ふくせいぎ)」とよばれる部分があってややふくらんで見えますが、メスにはなく平らです。また、第2節の黒いもようの形も違いますね。それから、オスの腹部の先には「上付属器(じょうふぞくき)」と「下付属器(かふぞくき)」とよばれるものあって、交尾のとき、これではさみこんでメスと連結しますが、メスにはかわりに「眉毛(びもう)」があります。

←アオモンイトトンボのオス (上2枚) と同色型のメス (下2枚)。

上付属器 (じょうふぞくき)

下付属器 (かふぞくき)

眉毛 (びもう)

[オス]

副性器 (ふくせいき)

眉毛 (びもう)

下付属器
(かふぞくき)

上付属器 (じょうふぞくき)

[メス]

アジアイトトンボの交尾。上がオスで、下がメス。オスは付属器でメスをはさみこみ、副性器を使って交尾する。

最後に、アジアイトトンボの交尾中の写真です。上下の付属器でメスをはさみこんで連結し、副性器を使って交尾しているようすが分かりますね。

【理科支援員：宮内】